



PROFILE おちあい・みえこ (54：中町)
御前崎災害支援ネットワーク会長、ふじの国災害ボランティアコーディネーター、NPO法人日本防災士機構認定

災害に強い人、まちづくり手助けしたい

おちあいみえこ
落合美恵子さん

住民の防災に尽力

「地震や津波から自分の命を守ることができるのは、自分しかないんです。そのため普段から意識を高く持つてほしいんです」。そう話すのは落合美恵子さん、御前崎災害支援ネットワーク会長だ。

同団体は、災害時に行政に頼らない市民による自助、互助、協働体制を推進するため平成19年に立ち上げられた。住民の自助の力を伸ばすためには知識量を増やすことが重要だと考え、イベント時の呼び掛けや年に1回有識者を招いてシンポジウムや講演会を開いている。さらに、有事の際には迅速かつ的確なボランティア活動も展開。東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槌町へも何度も支援のために足を運んでいる。

原点は「命を守る」

落合さんが同団体を立ち上げたのは、中越地震がきっかけだった。被災地では、会社や工場が壊滅的なダメージを受け、継続雇用ができなく

なってしまうという問題が多発していた。ライフプランニングコンサルタントを務める落合さんは、経済的な情報を得るために現地に赴いた。そこで見た被災地の現状から「御前崎の住民の命を守るために行動を起こさなくては」と仲間を募った。現在会員は個人が25人、法人が30社と大きなつながりとなっている。

意識を高く持って

近い将来、東海地震が発生する可能性は高い。落合さんは「みんな何かあれば行政が何とかしてくれると思っています。それは違います。行政職員も被災者になりますし、関係機関との調整や避難所の運営などで精一杯になるのは間違いない。自分の命は自分で守るしかないんです。生き延びることも一緒。だからこそ防災、減災、避難に対して意識を高く持って行動すべきなのです。子どもたちが学校へ通う通学路にも危険箇所がたくさんあります。子どもを持つ若い世代にも防災に対してもっと関心を持ってもらいたいです」と呼び掛ける。